

<b>授業科目名</b>	文化芸術交流論(2000063)		
<b>時間割名</b>	文化芸術交流論(24202)		
<b>時間割担当</b>	吉岡隆之 北村義博		
<b>実施期</b>	前期	<b>単位数</b>	2 選択
<b>曜日・時限</b>	火・4		

### 授業の目標・概要

(概要)文化芸術は、人々の創造性をはぐくみ、その表現力を高めるとともに、人々の心のつながりや相互に理解し尊重し合う土壌を提供し、多様性を受け入れることができる心豊かな社会を形成するものであり、世界の平和に寄与するものである(文化芸術振興基本法前文より)。以上の観点に立ち、本講義では、世界各国や日本の地域社会での文化芸術交流の実践例を取り上げ、その意義とあり方について考察し、文化芸術交流を通して人類・社会に貢献する方策を模索する。

(単位認定者/北村義博)

(オムニバス方式/全15回)

(北村義博/6回)世界各国や日本の地域社会での文化芸術交流の実践例について、自らが行ってきた医療・福祉・教育施設などでの文化芸術交流も含め、実演も交えて、ビデオ教材、資料などにより紹介し、その意義とあり方について、自身の経験も踏まえて考察する。

(吉岡隆之/4回)自らが行ってきた世界各国や日本の地域社会での「癒しの感性の芸術フィージングアーツ」による文化芸術交流の実践例を、ビデオ教材、資料などにより紹介し、自身の経験も踏まえて、心の豊かさやについて「癒し」「感性」「創造性」「共生」の観点から考察する。

(北村義博、吉岡隆之/5回)授業内容を踏まえ、受講者の文化芸術交流に関する体験や考え方を共有し、文化芸術交流を通して人類・社会に貢献する方策について、議論することにより模索する。

### 学習の到達目標

1. 世界各国や日本の地域社会での文化芸術交流の実践例を学び、文化芸術交流の意義とあり方について理解する。
2. 文化芸術交流を通して人類・社会に貢献する方策について、自身や他の人の経験をふまえて考察する。

### 授業方法・形式

基本的には講義形式で授業を進めるが、理解を深めるために一部グループワークなども取り入れる。適宜、デジタル教材等による授業もおりまぜて行う。また、毎回、授業内容に関する小課題の提出を求める。授業内容に関する積極的な意見の発表、発言などを奨励する。

### 授業計画

- 第1回 地域社会での文化芸術交流の実践例 (北村)
- 第2回 地域社会での文化芸術交流の実践例 (北村)
- 第3回 世界各国での文化芸術交流の実践例 (北村)
- 第4回 世界各国での文化芸術交流の実践例 (北村)
- 第5回 文化芸術交流の意義とあり方について (北村)
- 第6回 文化芸術交流の意義とあり方について (北村)
- 第7回 地域社会での「癒しと感性の芸術フィージングアーツ」による文化芸術交流の実践例(吉岡)
- 第8回 世界各国での「癒しと感性の芸術フィージングアーツ」による文化芸術交流の実践例(吉岡)
- 第9回 心の豊かさについて : 「癒し」「感性」「創造性」(吉岡)
- 第10回 心の豊かさについて : 「共生」(吉岡)
- 第11回 文化芸術交流に関する体験(北村・吉岡)
- 第12回 文化芸術交流に関する考え方(北村・吉岡)
- 第13回 文化芸術交流を通じた地域貢献(北村・吉岡)
- 第14回 文化芸術交流を通じた国際貢献(北村・吉岡)
- 第15回 まとめ(北村・吉岡)

### 成績評価の基準

授業への取組(積極的発言、発表など)50%、課題(レポート、小課題)50%

### 授業時間外の課題

毎回、授業終了時に、授業内容に関する小課題及び次回の授業内容に関する小課題を課し、自己学習(復習・予習)を促す。小課題は次回授業開始時に提出する(一部、自主的な発表を求める)。

### メッセージ

できる限り授業内容に関する受講生の意見を聞きながらすすめたいと思っていますので、積極的に自らの意見を述べて下さい。また、自己学習を重視します。(北村・吉岡)

### 教材・教科書

特定のテキストは使用せず、授業内容に関する資料等を配布する。

### 参考書

参考図書、参考文献等については適宜、情報を提供する。